

魔でどいてもらうには「Execute me」ですし、自分の非を認めるなら「Sorry」です。「I apologize」も失敗した時にちゃんとあやまる表現としてよく使います。お店で店員の注意を引く時は「Hello」という呼びかけが無難です。アメリカなら「Hi」で済みます。「Hi」は挨拶なので、日本語の延長で「イエス」のつもりで使うと通じません。》

名前

名前には家族名（姓）と個人名（名）があり、日本ではおもに家族名を使います。これは社会習慣なので、日本にいる限りそのままでかまいません。アメリカだと自己紹介した後は個人名で呼ぶという習慣があります。家族名で呼ぶという事は、あくまでも相手とは距離を持ちたいという行為です。社外の顧客やそれなりの地位の人を呼ぶ場合は「肩書き＋家族名」になります。プレジデント・オバマとかドクター・ピーターソンのようになります。

香港の中国人は個人名として中国名と英語名の両方を持っています。日本人でも外国に行く機会が多い人は、英語の個人名を持つ方が名前を覚えてもらうのに役立ちます。これは職業上の芸名ですから、「まこと」なら「Mike」とか「恵美」なら「Amy」など音の近いよくある名前を使います。近い音

の名前に良いものがなければ、まったく違う音でもかまいません。一般的な名前だと相手にすぐ覚えてもらえます。

《筆者は適当な英語名を思いつかなかったので、個人名を単に短くしただけの Masa を使いました。でもこれは失敗でした。アメリカ人には馴染みのない名前なので、初対面の人には毎回綴りを教える必要があります。香港の中国人のように Eric とか Cindy といったよくある名前を選べば、こんな面倒はありません。例えば映画スター **Jackie Chan** の本名は陳港生で、中国での芸名は成龍です。》

英語圏の名前のルールによると長い名前は短くして使われます。たとえば Thomas が Tom になり、Robert が Bob になります。Christopher が Chris になり、Christine も Chris になるので、Chris だけだと男か女が分かりません。Jonathan が Jon になり、Elizabeth が Beth や Liz になります。親と同じ名前の子供もいて、その場合は親に Senior、子供に Junior を付けて区別します。例えばパパ・ブッシュは George Bush Sr. です。職業上の英語名を付けるなら、短い名前が覚えやすくて便利です。これはパスポート上の名前とは違い、あくまでも芸名です。Thomas がパスポート上の個